

臨床試験

PEG交換地域連携クリニカルパスを用いた在宅介護の負担を軽減するレスパイト入院

花篤 裕美 1)、東郷 直希 2)、北野 真由美 1)、中岡 靖果 1)、長野 正広 3)、真嶋 敏光 4)、
永井 祐吾 2)

泉大津市立病院 地域医療連携室 1)、泉大津市立病院 外科・内視鏡外科 2)、長野クリニック 3)、
真嶋医院 4)

[和文要旨]

在宅で経腸栄養を行っている高齢者が増えつつあるが、介護に携わる家族の負担も長期にわたれば、決して楽なものではない。そこで、胃瘻カテーテル交換に際しての患者の安全の確保と栄養評価、さらには、家族のレスパイトを目的に『PEG交換地域連携クリニカルパス』を作成して、胃瘻カテーテル交換レスパイト入院を受け入れている。木曜日に外来診察を行った後、入院。金曜日に内視鏡観察下に胃瘻カテーテル交換を行い、その後、口腔ケア、栄養評価などを行って週明けの月曜日に退院するというスケジュールである。

パーキンソン病2例、歯状核赤核ルイ体萎縮症 1 例、脊椎小脳変性症 1 例、破裂脳動脈瘤クリッピング術後 1 例、の5例に延べ7回のレスパイト入院をおこない、全例に内視鏡下に安全に胃瘻カテーテル交換が行え、2件のバリエーションを認めたものの、入院中の口腔ケアや栄養評価に対する評価はおおむね良好であった。『PEG 交換地域連携クリニカルパス』を使用することで、患者のみでなく、家族の QOL が改善する。